

令和8年 1月～3月期 作州津山商工会管内景況（DI）調査

調査方法 専用ホームページ及び経営指導員による訪問調査

対象企業 作州津山商工会管内の小規模事業者 120事業所

製造業	建設業	卸小売業	サービス業	合計
24	31	28	37	120

調査結果の概要

<全体 ～仕入DIはマイナス幅が減少、それに伴い採算性もマイナス幅が減少～>

令和7年第四四半期(前回調査)と同様に、仕入DIのマイナス幅が減少しています。
今後の見通し(令和8年4～6月)は、引き続き仕入DIは悪化が続く見込みです。

<製造業 ～売上DI・資金繰りDIはプラス水準、採算DIは若干のマイナス～>

売上DIは25.0(前回16.7)、採算DIは▲4.2(前回は▲4.2)、資金繰りDIは4.2(前回4.2)となりました。
今後の見通し(令和8年4～6月)は売上DIは好転減少、採算DIは好転、資金繰りDIは維持の見込みにあります。

<建設業 ～売上DI・資金繰りDIはプラス水準に回復～>

売上DIは6.5(前回6.5)、採算DIは0.0(前回0.0)、資金繰りDIは12.9(前回12.9)となりました。
今後の見通し(令和8年4～6月)は売上DIは悪化、採算DIは悪化、資金繰りDIは維持の見込みにあります。

<卸・小売業 ～売上DIはプラス水準。採算・資金繰りDIは引き続き厳しい状況～>

売上DIは25.0(前回25.0)、採算DIは▲17.9(前回▲17.9)、資金繰りDIは▲10.7(前回▲10.7)となりました。
今後の見通し(令和8年4～6月)は売上DIは好転減少、採算DIは悪化緩和、資金繰りDIは悪化緩和の見込みにあります。

<サービス業 ～売上DIはプラス水準を維持、資金繰りDIもプラス、採算DIは引き続き厳しい状況～>

売上DIは21.6(前回21.6)、採算DIは▲5.4(前回▲5.4)、資金繰りDIは2.7(前回2.7)となりました。
今後の見通し(令和8年4～6月)は売上DIは好転減少、採算DIは悪化減少、資金繰りDIは好転の見込みにあります。

<業種別業況>

仕入単価DIは卸・小売業で特に厳しく、今後は製造業も厳しくなる見込み。

<時系列比較>

売上DIは全業種でプラス水準。
採算DIは前回から横ばい。
資金繰りDIは卸・小売業を除きプラス水準に回復。

<業況変化の要因>

販売・受注の増加や民間需要の活性化により業績が好転しています。
仕入価格の上昇(商品、原材料等)が1位回答の最多となっています。

～業種別比較表～

○製造業

比較期間	状 況	売上高	仕入単価	採 算	労働力	資金繰り
前年同期比較 令和7年1月～3月	天気図					
	D I	25.0	-33.3	-4.2	8.3	4.2
来季（見通し）比較 令和8年4月～6月	天気図					
	D I	8.3	-29.2	0.0	8.3	4.2

○建設業

比較期間	状 況	売上高	仕入単価	採 算	労働力	資金繰り
前年同期比較 令和7年1月～3月	天気図					
	D I	6.5	-29.0	0.0	16.1	12.9
来季（見通し）比較 令和8年4月～6月	天気図					
	D I	-3.2	-6.5	-3.2	16.1	12.9

○小売業

比較期間	状 況	売上高	仕入単価	採 算	労働力	資金繰り
前年同期比較 令和7年1月～3月	天気図					
	D I	25.0	-50.0	-17.9	21.4	-10.7
来季（見通し）比較 令和8年4月～6月	天気図					
	D I	10.7	-35.7	-14.3	21.4	-7.1

○サービス業

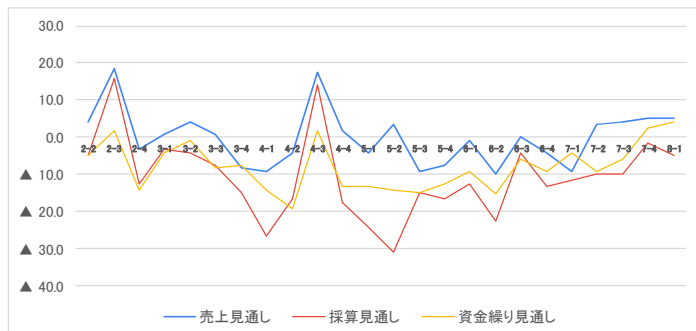
比較期間	状 況	売上高	仕入単価	採 算	労働力	資金繰り
前年同期比較 令和7年1月～3月	天気図					
	D I	21.6	-21.6	-5.4	18.9	2.7
来季（見通し）比較 令和8年4月～6月	天気図					
	D I	5.4	-8.1	-2.7	16.2	5.4

～天気図の指標～

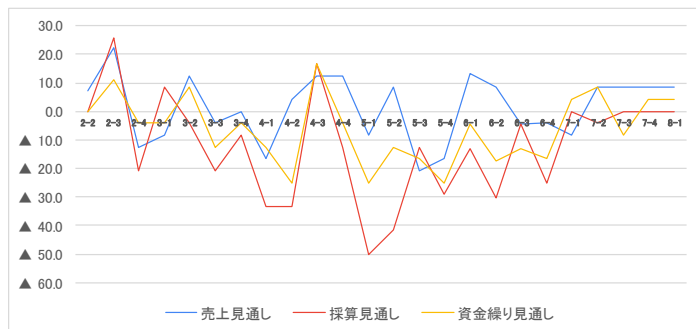
状 況	快晴	晴れ	曇	雨	雷
天気図					
D I	30～	10～	0	-10～	-30～

～グラフによる今後の見通し～

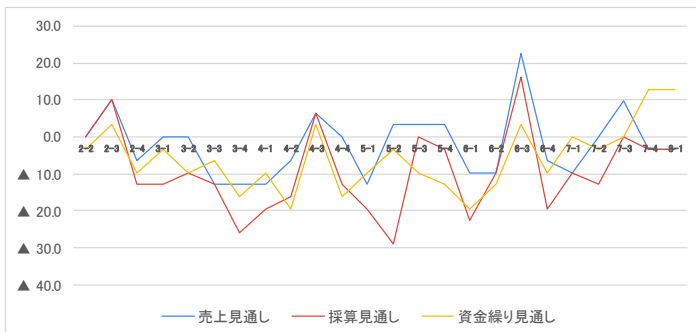
◎全体の売上・採算・資金繰り見通し



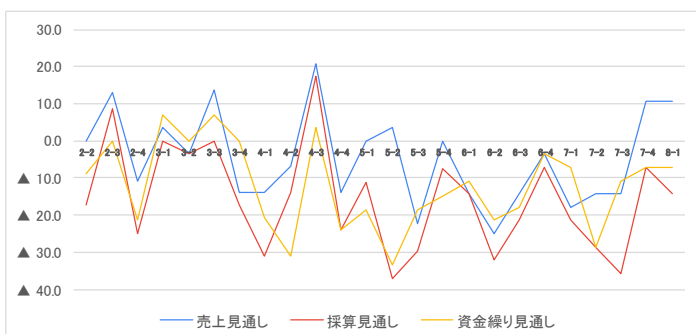
◎製造業の売上・採算・資金繰り見通し



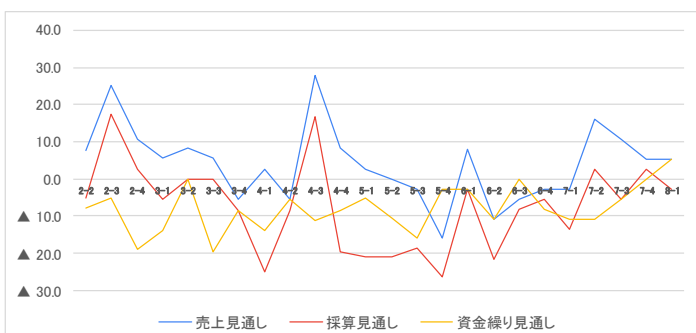
◎建設業の売上・採算・資金繰り見通し



◎卸・小売業の売上・採算・資金繰り見通し



◎サービス業の売上・採算・資金繰り見通し

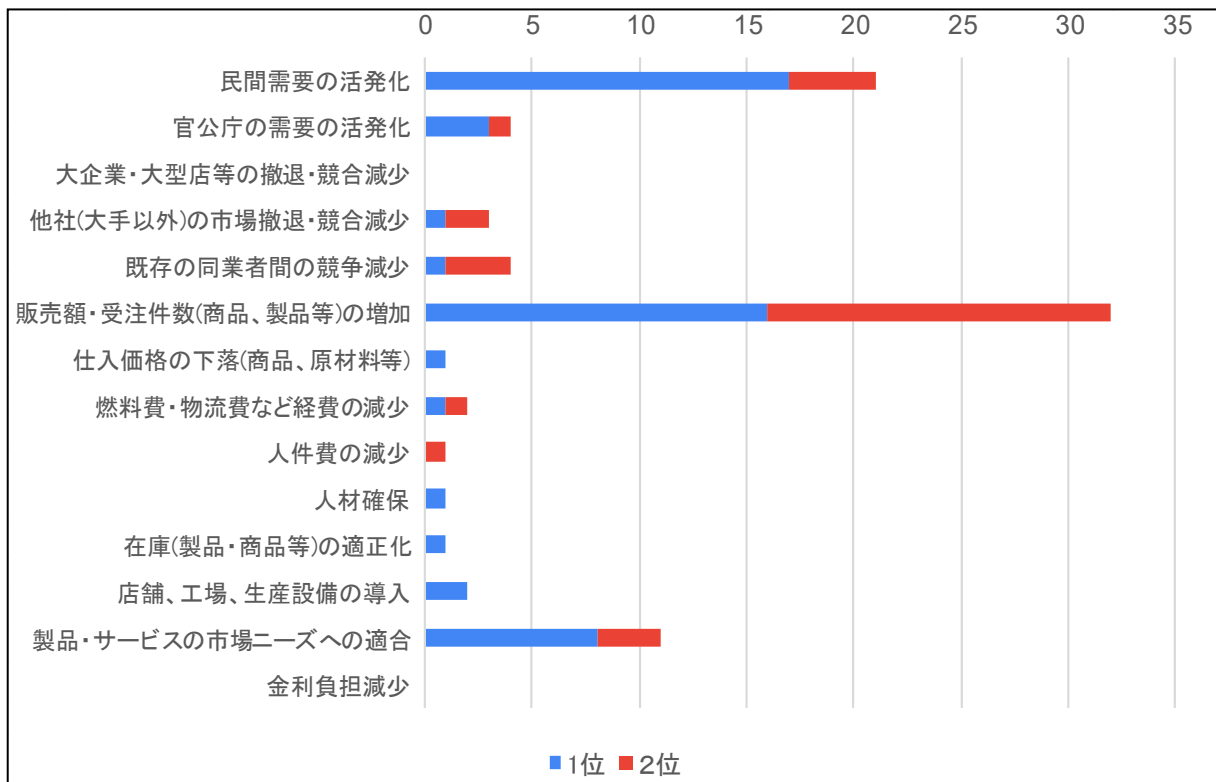


— 売上見通し — 採算見通し — 資金繰り見通し

○業況変化の要因

～景況が好転・増加した理由～

販売・受注の増加や民間需要の活性化により業績が好転しています。



～景況が悪化した理由～

仕入価格の上昇(商品、原材料等)が1位回答の最多となっています。

